

特集

周術期の歯科治療 ②

周術期の口腔ケアに取り組んできて

済生会富山病院・歯科 河合 宏一



本院の「周術期」は、書類の整備そのほかで手間取り、五月連休明けからスタートしました。この問題は歯科単独の行為ではなく病院全体が関わるため、臨時委員会の立ち上げて協議いたしました。そのメンバーは、診療部長（外科部長）、看護部（副部長・外科病棟部長・外科外来看護師）、医事課、情報管理室、そして当事者の歯科衛生士と歯科医師です。

何より必要な医師からの依頼書と患者の同意書

何よりも必要なのは、医師からの依頼書と患者同意書です。一カ月使ってみ

ていくつか手直しが必要になりそうです。五月だけで三十例、レセプト請求はこれから

今のところ一日二症例、ほぼ隔日に依頼がきます。五月だけで約三十例になりました。レセプト請求はこれからですが、何が通り何が査定されるかは不明です。自身も勉強しながらグレードアップして行きたいと考えています。先日の大田洋二郎先生のご講演でも、がん治療に関しては研修を受けて、日々研鑽を怠らないようにとのお話し、身にしみました。

患者：年齢74歳 女性
病名：上行結腸癌（全周性狭窄）
術式：右半結腸切除手術、リンパ節郭清

歯科医師会などから配布されるかもしれない計画書・報告書を持っていてはできないので独自の書類も作成しました。前号でも述べたよ

うに、周術期の「口腔機能管理」なので、術前後の口腔ケアだけでなく、咀嚼・嚥下機能が低下している場合はそれへの対処も行いました。一例だけ症例報告いたします。

肉溝内の歯垢除去、舌後方の舌苔除去、口蓋の粘着物質ぬぐい取り、頬粘膜のふき取り
術後の口腔ケア：歯面の清掃、口腔前庭・頬粘膜・舌（奥舌までは行わず）・口蓋の表面清掃
周術期口腔機能管理報告書 2（術後）作成、患者に説明
義歯適合処置：経口摂取も意外と早く始まり、咀嚼と嚥下機能をこの機会に改善するようお話しし、今まで入らなかった下顎義歯をリライン（裏打ち）し、上下一緒に入れるよう指導した。周術期口腔機能管理報告書 3（経過）作成、患者に説明
3（経過）作成、患者に説明
経過：義歯は入れて歩行と咀嚼をしてくれている。今までは（長年入れていなかったため）歯牙移動で入らなかったが、今は楽に装着できるとのこと。

本症例以外でも、術後回復期になると主病の不安が消失、やっぱり義歯の修理

をしてほしいとか、くいしばりによる肩こりも治してほしいとか、嬉しい要望が出るようになりました。やはり術前は手術への不安で頭がいつぱいで、口腔ケアの意義はそれほど聞いていないようです。

最近、胃瘻の適否がテレビなどで話題になっていきます。延命のための胃瘻か、栄養摂取の手段としての胃瘻か、経口摂取までのつなぎとしての胃瘻か、今後議論は続くと思われませんが、口から食べる栄養摂取が本道だということに変わりはありません。医療技術が進歩したおかげでヒトは死期を延長できたのです。口から食べてこそ人生であり、人間性回復のための医療ルネサンスの時代に差し掛かっているように感じています。病院歯科の在り方も今後の医師のような雰囲気です

Table: 周術期、口腔機能の管理計画書 (術前)

管理計画書 (上) ... 医科からの依頼を受けて、管理計画書を策定し、患者に提供することで「周術期口腔機能管理計画策定料」が算定できる。
管理報告書 (下) ... 計画に基づき口腔機能管理を行ない、患者に管理報告書を提供することで、「周術期口腔機能管理料」が算定できる。

Table: 周術期、口腔機能の管理報告書【手術前】

Table: 周術期、口腔機能の管理報告書【手術後】

医科歯科連携研究会シリーズ① 「糖尿病患者」の歯科治療 ~ 歯科治療時の留意点、医科との患者紹介のしかた ~
講師 大澤 謙三 先生
7月18日(水) 19:30~21:30
富山電気ビル 5F 中ホール
同封のチラシにて申込下さい